Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

II
25
86
Y994-J8273
12008011182748
書圖局許特
382
9

R 97
352

果樹全書卷九目録

諸木之類十五種

楡 桐
櫟 柳
山茶 竹

Y994
J8273

I種
W

1200801182748

大正12年9月1日
第382號
特許局圖書館

農業全書卷九目録

諸木之類十五種

松 オ一
杉 オ二
檜 オ三
桐 オ四
櫻櫚 オ五
椎 オ六
櫻 オ七
柳 オ八
夾羅得 オ九
擬 オ十
山茶 オ十一
竹 オ十二
蘭と作る法 オ十三
諸樹木栽法 オ十四
接木の法 附り養 オ十五

特許局圖書
國 函 5
號 755
部 1 架 3
冊 11 號 50
Y994
J8273

農業全書卷九

諸木之類

松 才一

松ハ百木ノ長ジテ不偏
ノ公ノ字ヲ書ヲリ二葉
又ハ葉ノ葉ノ如モアリ。
四時ヲ不改ズ和漢共
ニ是ヲ愛ス其ノ葉ノ
松乃下小茯苓アリ同ジク
根下ニ虎珀モ生ズ。仙れも功能ある良薬なり又

松脂は松のくち強く引かれども堅ぞこの服茶膏
茶万用多きわかりの○うめのはぢ云二月初ものを
ぬきまくれつるとうしとす山時長根乃ちをとくつ
けく深くうへきびしく踏付れば根るゆるなし
るとをんかけく栽へし○又曰二月の中分のお秋分に植
ちを蒔。るとゆくくうめわくるまハ活るわかり
松とうゆるる。正月の中ゆり二月の中まぞ。
秋分のねの続いまぞくくく

けゝ又薄あをうゝ記載の為もおかひとゝをさゝ三年の
内は四二月たゝうく付くうゝしうゆゝ
苗ゝ同じ。但苗地は移りく肥こる地よ苗をくべ。
とる時根のたゝを付るふゝ〜〜
ねぶま ○又杉木と材木りは植はさりたゝて久く
とけば苗よりりく。必出付くく中まゝく苗ゝ地也。
きりたゝて二三年ほど剥て置へ中蒸りかし○
又杉はまちぬ而もけすきはゝくゝけむゝもみと
すれたゝとおかひ置へ多年とくく杉さゝ溜に
苗ゝとなるはあり。但今日付ける苗ゝ去年よりさる

らありとも一尺ばかりあるゝ苗ゝきたゝを入れ杉城
移れて植て第ひとなる但苗ゝ移りれ心多しせんく
ゆゝ分と見ひく。第ひとあるさゝゆくゝ又苗ゝ
やれあるらあり一歩二歩ゝ苗ゝ植ゝ杉と二三株まき。
たとゝ付置へ。必付るはあり ○又杉をさゝ木ゝ
とゝと岩書よりゝ屋ゝ山の遠ゝ杉
ゝとゝ尺ゝゝゝ地ゝ杉の泥ゝゝゝ
ゝたゝ材木ゝ見ひくゝ地ゝ汁助となる良木なり。外
地ある雨海漢又ハ田畠のさゝりとあらゝゝあるハいろ
狩も多くゝゝゝ。但を焼新ゝ杉の枝葉ゝこゝる

ねをしされども田畠にもとりかはしくうゆるなり
まこ海藻田畠よりのり松ハ
ち藤ハ松ハ藤よりあかさ山まとれとなれとなれ
おすいとちかいさあしよハく沖ハ藤ハとかハ
べし田よりとれとなれとなれとなれとなれとなれ
杉 オニ

杉ハ松ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ
ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ
ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ
ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ藤ハ

とるべし九月よりくさるを多くうゆ海藻ハ
掛干しして干てもべし但黒くいろおさてしてか
らよ三分一もあるなるかしさ藤を苔ハかるとも去
ぬちしかるようしかれ中に沖ともろねかれ
中ようなるおかり ○苗代いの
も把ろたのおうるかひあるねとなむなり
冬ようなるとも多く入まき式なもおかしこれ
しさらに冬二月雪落ちく晴ハしを消
ろよ漬二三日もとさろとと乾し細畫ようと食
横に筋とせてくかかく苗ハ稼ようかひとちち

と蔬付豆の糞をしくるもよし。せんばくるるよあらバ板さうぶくゝ清水の水源とうくゝ池の田畑つゝ池の水
桶とかさ日おかひとしとさ一人あるゝ池よ
てさうくゝくゝバ稲しうゆべし。ぶいまぐかさくゝ。
小源清水とうらぶくさよかゝ水ぶとうくゝ稲しうゆべし。○又ふとうゆる法九月
子城石苗地とう稲も肥し。細ふかてふ一豆て十
月前べし。前稲も入ハ右同じ。ゆる苗地をみ
右うくゝくゝ豆ぶくさる苗と植て一ぶつ
すとしてうくゝくゝ豆ぶくさる

そくゝ苗ふるふふつぶひくゝ先ぶ豆ぶ稲しう
ゆべし。そうぶたりぶおひとするもおよ同じ。○
又さ本ぶふふも地さるゆうりさの清ぶる。
稲ぶりん先石ぶらもなり地ぶお年麻を前る
法ぶとうくゝとぶ豆ぶとそおうりさ前ハぶた
さうゆるなりぶふ清稲ぶくゝもさうくゝ
くゝゆるふハぶ豆三月ふうさ地稲ぶくゝさとふう
びねと一尺ぶりくゝうり二尺ぶくゝ人ふの石のねの大ぶて
ようり尺合せさうくゝ。麦ふよ茶とおう二三脚法
し。稲ハ麦ぶくゝ切さうそぶの前ハぶう耳のごくゝよそ

さ。もし隙作れば矢がら強るゝ。ゆえ
成ゝ。くゝ。ゆえ。かゝめおかく。個へとゝ。ゝ。
穴を入れすも深くつゝ。ゝ。ゝ。種ものゝ。ゝ。
る程よ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ

くさう人安くかるくしてねすきこびよちちゝ熱ず。
根よ作り。檜よかけ。桶若よ生ろ。うぶにつぎを
刺ろるべゝ。ゝとを。みよ入べ。面よねきちよ入くく。
さゝと指御とすべし。ゝ。ゝ。ゝ乃ゝ。ゝるきそ。
生作ゝ。ゝ。ゝ。

枝末かどまでひろがりて豆莢多くして色赤き
ものそなり枝葉ハ蔓こ似て長くしてまたまはせ
ざるゆへ人てる花豆ひめ〻こ花奥山よりかれ〻ハ行き来ス。
是ハ白りをとさきのよ牡丹ハ紀〻ハ四月ハ
海棠〻ハ三月ハ桃ハ夏ひて生ずハ水仙〻ハ是ハ春ハ花ハ

桐 才四

桐こ種あり。梧桐いまち桐
と云ふ。是ハ皮あをく色白く
して重ク生ず。肌滑らかに
しく性つよし。四月花

とひらき六月ハ実と結び秋熟ハ〻て。ずかぐらも
含し。物ても食すべし。めづらさ菓ハ有りハ結
桐月と知るところのあり。閏月まで知るもあり。ハ
ちかぐて十二葉あり。一方ハ六葉づ有り。閏月ある
年ハ十三葉なり。小さき所。お国ところ〻又立物
月とも知る。ものに有り。一葉出て蕊花もされ
いろんなるものなるもこそ。庭ようハ植てくも悪すべき木
なり。世話する霊木なり。九月ハとりとさて二
三月ハ白り戸人戸人ぐりハ九月を作り。あをおの
能ひきそハ乾て。戸人すハ一枝づゝ。数ハ番号と

わたしと合せ、こゑ稼をおかひ、をてはぎいくあがとそ
れ帯に乾りすべしすず。肥地かれば、こゑ年にてこゑ七
八尺よりゐるあり。そこよりてハつゝゐるよりと品
に多く蒔本と一ちづゝあとくべし。雪霜ゑ痛ひ
あるる所ハ乃ごくしてこゑやりすくりす来る三
月中。稼ゝゐるへし。そこ色ゑりハ色ひゝなどとこ
ハ稼と成てハ下れあの内とお剥くゝ痛じれ、おひく
実のゐる花なり。○仙桐花帯に板して方乃笠よ
り出ゆる桐なり山桐よハ少よいかしと云紙あれども花房
乃ゐゐなる。穀の中にまりくゝれくゝ嘴乃ほのごとく

まそこゑ稼とハゝくゝねもれありさしども。れそとゑそ。
面れ出よあゝゐゐぬ所のきれ下ぬまゐゐ乃下るなどと
かく日風面もつゝくあゝゝずしそゝく肥ゐる地ゝポに
石灰ゑ乃ごゑ乃豆肥ゑとも加へゐゐ蔚ゑまゝくゝあ
くゝすくゝかゝゐなどとゐ乃すくゝ米ゑ二バ石灰の品ゐ
ゝ出ゝ出て面風よのゐわくゝふゐゐるとゝゐゐる云同ゑ
ゐ乃ゐゐくゝ本れゑなどとゑ合せ稼ゝゐゐべし。そ手稼
ゝてハ拵るものなり。ゐ乃ゑ乃ゐゐゝとゝゐゐども。ゐ
稼貝出面のゝ紀肥地藤の黒ゝ品ゑなどの乃ゐゐゐ
さ白ゐゐ。和稼とゐんゐゐてゐゐべし。紀稼ゝ完とゐゐ。

把てるたゝ拵るまゝにぞ。がかゝりれたるとかさべく。
こゝよりうへをとうへ。根ぞへ木をゆひるうゝ。なるべ
きあゝべ。木ごとにつゝきかけをゆひてゝるゝ。直なる
ぶくのべ。用木よりなるべきとびこゝまゝふゝゝせ。ぬ
かこさいみく。根のゝけものびるゝ。ちゝきりさり
て沼はよりう。あれいゝざるあゝよけのかゝくゝもこゝを
くべ。やうゝ。夜中ぬ。二月根ものびあるのなり。
根もつゝ。根竹をゝゝ。ゝ張ゝく。風よもたゝんざ
るあゝよゝをくべ。おゝうゝはるゝ。大くゝくゝび
さゝゆるあなりされゝもはきあべゝ。ゝるをゝゝ

とゝゝるよゝゝべ。けんぬを廣くゝて。木の肌あゝ
く柔らゝなり。強よ。ゝるゝゝ。ゝるゝあゝ。ゝへゝん
て木れ拵ゝゝず。又樂黒よ作るへゝゝ。盆の光ゝよ
つゝ生じ。月風ゝくゝ。面ゝ面の木。ゝゝ。ゝ物まゝく
冥ゝく。ゝゝ。ゝゝ。ゝ。

○又桂桐。ゝをあぶゝ
桐ゝゝ。ゝ。實。甚多くゝ。ゝゝ。油。
を三分一合せ。強が入ゝ。油。
く拵ゝる。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

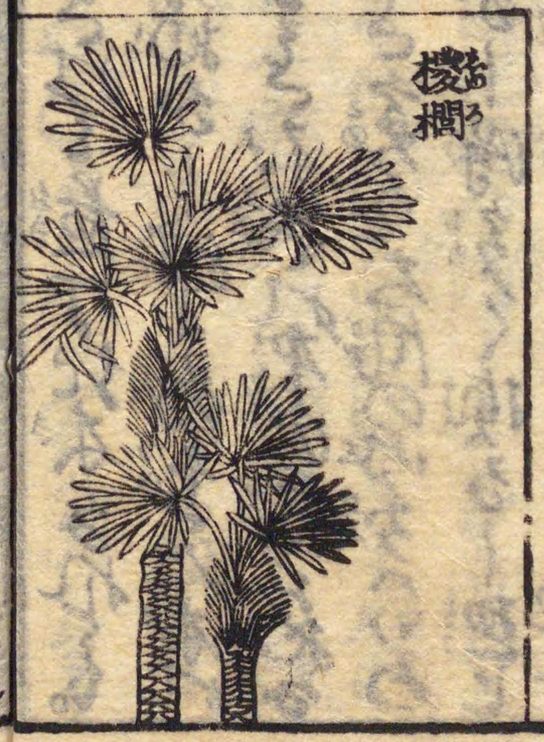
よ加へく煮わと煮うりぷ八松脂とねり合せてく八漆よ
加へ用ひく煮わとめり。船とする。唐人の船よりぷん
とかるると云ハ山わなるべし。西国にてくあぶらせんと
呼なり。而よりの油ハ水とも云となり。又虎ヶ桐とも
云ふ。○うゆの法。よく実り熟くるを採ひと
度しるに俵ヶどよ入とき泥の塩によりて。
さうくらくわ乃さこりけ乳風雨のにようぬ水
に。一紙ヶ水深く完をかり。一完よ一二粒づうを乳。
半ヶ年ヶ性乃けくさを一ヶ年ヶ過くけ立べし。数年
とへをしてふくり実。ぷんくしてへ実多くなる

ぷけり。材木新にしてぱさけを盗なれ水るれども。
油の多こさるの。是よ。あるわかし。よ多きの本れ
子ハ秋大風よあひくへぷまざ不熟れ中に落る和ヶ
れども。ひわハ七月中にたくと実り。大風の時ハいわ
付毎年皆損をるゆハかし。得多く損るし。地じ
て出而よ。彼油多名れども。松の切ようくけとまり。蕎麦
と盗れごくなをゆ油よ勝る和るし。外地ある所ハ。
かりぬひ沢米。多くうゆべし。地ヶ実同ごく油食和
よあやまりく入バ人よ毒なり。れあつひ毒と入る
小豆のかりうよとくべらず。○危桐ハ。器物の糸

うえてそだてもつよさゆへ。もと多くうゑわけ。
益を多く。園圃よりも多くうゑべし。又椶の木。桐
の新芽。もえ出でやすく材とすべし。木もまた

椶櫚 才五

毒ものとうゆるハ九月実よ
くうまく熟し。とれ。俵
よへ入きちんと沖こまをして。二
月芽かわるとこやしを肥と雎づ
くり。菜とうゆるごとく



しかし深根とかさぱんとうゆるごとく。二寸
かぶ。一粒づつ。糞土とおなじくよろしを
土とかけとかけとくべし。ひくすれば。芽
芽。乾くハ水あとそくれ中とかさあざりて。時
く小ぶうちうるハ当ようく栄へふるとるハ芽
つしうゆべし。○梅。うゆる泥ハ。平泥ハ肥こる
ハ。盛土早くれども。肥泥ハ。
里ハ。屋敷白り。若くハ肥こるあかげ。ハ白の。穀
ハうるぬ所ちどおき色する泥必あるまこべ。いとつ
けくおひべし。いつ。竹ハ竹の新芽するよく竹のまち

所にわかす宜しとあり。二月九月もうえ
又八月初旬より中もうえ。こやしをかけ
あらぬ人とをとくうへ。根と出くしあとをとなわく
其あとをそくいるしうしたれさう
る紫をべ〳〵切ニ三つ人もしくなりてハこ紫
扇めをしつ。ニ月にさくりいるくなりこ紫の董
ハニかどありとく。紫ハ耐ちがすず。緑ハ直しくく
なまひとく。赤ハ赤さなりだまと成ていたの
ちくよう〳〵○皮を剥れの。ハ麦ハくらへ
ぐもニ段ぐりだくさ刺べしまニケ月一度づけぐ

ともいろ〳〵ハ。ハ入よるべし。ま度。
縄とかし。あてハくく。ふ巣くさらぬとこるせり。
されで又船ハ大縄よしてまの初なり。唐紅縄
ハ皆ちゆあかりとこぷ。牛ろの縄ようべ
おりして久〳〵く拵ねるしわらぶ作りて。
るくゆおく。古根もつぐ。軍旗ハうらよなる
らぶどもと明ゆし。常に作るハ唐紙書よハ
ん〳〵ず。ハ木ハ意てるゆ。多くうのしとも。花を
さわこはいてど。人ハもハとして刑とゆるハ
変し。大船多さまハ多くうのづこおり

山大根一箱ゝ[illegible]の時芋縄十條のゝくゝ[illegible]
べゝと云なり○肴古塚とひゝくさゝるゝ縄一ゝを
げとゆゝうりひしゝ人ゝ根と根とゝ[illegible]ゝ[illegible]
根乃縄ゝて根とかゝげゝるゝ。縄ゝうゝ根すゝく。
ゝて根と生ゝゝるゝもゝるゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ安くゝ生ゝやすゝ。多くゝ[illegible]ゝ多年の
ゝゝ[illegible]ゝ芋もゝくゝ[illegible]ゝゝ度ゝとりた
ゝゝ[illegible]ゝゝゝ

なる五つ穴にてうく後よゆる六月久しくしゆゆんゆん天
さ乃ふ乃ふ乃ふと明る七つ。蒙よ焼くく後おこりたつ
うく久しく消ず八つ初の栖にて〜〜く後さゆ乃ふ色
九つ。擄掃にして山よこゆる赤ゆ〜十。擅ふ乃ふ乃ふ
〜十一。落葉ようく地と肥をナ二。市町よひさこそて。
薪の便うさゆ〜撫夫れ利多〜十三。実とれ色
て。就種乃年食地と赤〜てをとゆる十四。代く後り
茅ちよく生じ後さうゆる十五。しのごとく新ひなき
明赤外り多くうへうく必國而と振すつきおな
うゆ。西新下にて〜改ゆを後ゆくるゆ。ふくゆと考

へ乃ふと明ひ赤び。後ふ乃ふ法多乃ごとくなれば。後
おくを。西を赤よ材多くあ赤よりて考稲え
りうすう。○うゆる清九十月実と拾ひ俵に入べき水
とかけ清を色。ぬざうとえうきせ後ひうゆ色ゆ。二月
清とけく苗地と曝ひ〜〜素をうゆごとくゆる
二三すとさ。一枝づくゆ考すくまれ乃と厚く打ふ上
と曝付色。生くく陽ふうびぬさ左。乃ごとをかく
べし。曝し赤乃赤に蘇〜くも写桑〜そもうくく日を
ふせぐ〜。さくく素年正二月苗写をすゆうなを。
たと付くく拾おこし後〜うゆべ〜。○図〜く稲す

ゆる地のくさをかやうの類あるものなり
年よりはうらく蕎麦の実かくと蕎麦ごろくお
ようるを求る蕎麦の根と掘うゞらえすこゝろを
ほうとうとなくて充とかりの根さえはすゝきうる所
麦こようの実くはゝ地のかいさこる時うのべうう
ゝあるうるかひるくいあとそくくゝもうりきくく
されど一なも拾るのかゝ実ようの麦こう実とうゆる
ゆゝもうゆべきこゝを深くうらゝゝもの木乃根ともの
ぞさもわさはさりなくまこうるゆべきを根廣
くうらこゝかゝ二三粒づゝうだこう深くふこゝろみ蕎

べゝくく蒔ざれど生じがくゝそこよてこの木は繁茂
かりどとおかひるるも当るゝ深くうくくゝ物をれ
かりどを蒔るゝ紙の結かりうゝうゝかさあぐるあ
すう図ゝくゝ山木乃黒こ苗と多く仕立ちど
ゝ入とゝ蕎ゝとも更ひく洒根多くさうくゝる
と正二月移ゝうくるゝたゝしゝ方るこいもうず花
ゝもうすゝくく実根なる用木にくくすこの結と云
雑木こうくれゝ信入信乃きあゝず蕎ゝてのの
酒ゝゝ湯ても新ゝゝ衣食こ深くく一日も
ゝくくゝ十ゝゝゝ抹の利と蕎ゝこうるべ

見なをつくもの一ぱいくらのすりうち泥にして肥料をきり
いぐどいとくるこれを畫乃おとのうえたるくしおの乃
用水苗とうへぶときうきうきう辛くたくるをせーらら
べしいうねやせてひてげらくくくもかとおしそうへ
生えるこれをうのおかせうこぬこ池いたれたりそこ
作るおうこうこきくくはすれるおれたこ
ようく種ずしこぬれこぶ方ゑも綿ぶ玉と富し
民をやしすふよ大ふ豆ほうぶとんと用ゆべ麦
しくハ総論ゑ紀しとくすり

椎 オ七

えいの木。見材木薪はし
く。擂ゑハなげどとそど
も。又こそ他の雑木れ薪
ているし。拾葉くさうへ
飯りやもく。ぶてよのびて
こそ性も強く。拾葉苦ゑ薪
ふし。多くく收めとさくハ
又そこで推くく。実あうく大く菓ようこそ又
穀食れ不見とゆるあせ。椎乃木ハ植まてるあ
なりこ平れ穀田ずこさ而ゑうくハ見と多くく收めと

さくく。常に稙よりも遅ゆるして苗を植よ。苗よく
そだつさうさうとくさくなるべきなり。ぢんがく強くれの
ふせぎかよう。度数とり過ようくもよう。実も
赤も他木にまさるよあり。ゆるい稙乃木よ同じ
○又とちとゝ云木あり。木葉山さおしゝ。そう紫かう
の木よりくさくたあり。そう実餅にして食とひとつよ
うと又にも記されあるなり。実ハ稙相乃実
よりまさるなりとゝ求めくらゆゝ。木葉のこみか
ぎくす。伝ふるもあるなり。ぬけ。ぬれりく接紋あるて。
黒ぬよ作りて見るなり

櫻 才八

櫻ハ本朝乃名ゆゝく唐
ゝ云れ中くに移するな
と見くさうの花のさかり
に及ぶべし。枝よ多くさう
つく。材木葉よもすぐれくより。葉ハとさむ
ゝて。色にこゆるなかゝゆるい実乃ちく
熟ゝ落ると拾ひあつめ。赤ようくもよう他
るかねぐるち作う。味作り菓留ぐくう
らくぶくとそまくゝ月前ゝるよう。又ハ二月よ

くまなくたと厚くおかひ養あとそくれむ苗時
物養と合せまくこるハ高ようとおの時分と
べしくせるわなり肥地ハ苗くまかぐめしまま
ハと用ひれそ万一年ハ二三尺もふこう綿花
くせぐるゆへ密ことの加安さわなり苗と
くこうくらくこたくこくこ代もわるも悪しとくこ
乃稲地そもせまもしふこうさうゆるの速うなり
あまれ時と度と剥くハかたとくく拵ひ度に多く
用ひそれ細工と用ゆるわなりかまと代くもやそ
かぐうあ茶ゆくかどふく茶ゆなり花と黄

ド材と用ひ多くくこく國用とゆる品茶なり
よかれかまかれそぷとれ茶くく必うのべし赤
太ふ太に豆しぷ地とぬすず右ひ代ち参品
ひれもふ太なり ○ハ茶ざくハ実くこれわなり
と豆ぬ法ハ中ハ茶くれぐも今海のの茶茶品初
野れ花とえれそ世農屋とれ加ようおて
伝境と拵ぐるんちぞしくうさわそ武のきんれ
茶べるハむべなり祇れ社のおくこう寺地乃なこう
けまあくふけまとつぐ拵ひ年とまくく拵何
ぬれ地くそもだ和海頃乃花の茶気とうすへし

そこらをまわる人は必ずこれを見べし。今武用れ
るを紀るる所。けうずんようぐるまく他のわ
ざけうこれをわくべげすきうをとあ一こくに書
るものなり

柳 才九

柳元も多くはりの。たまとも
とかりくい結果ともなる
多のあり。山柳は紫九多
くたく。本やうふしの
て移ぐく。揚柳よりたよ

し。ぼう柳は白くやせし。又垂柳あり。たまとも
くうのべし。正二月頃さし柳の枝をさす。笛竹のごとく
ると。長一尺ほど行よ切なり。のあとかやきぼる根
のかわりとりこうぬちとなびけく深く埋べくこと
又くぬ程にし。そこ万一二尺垂くこう略付の地乾か
ぬうとうぬ垂べ必一門よりあくまあると。中まく
ふくく性のつ紀と一年沈し。そ竹いたくこ竹の張
く垂をなると一年ちくと垂垂。一尺ばかりづつ垂と垂そ。
おわりの小縄まくく。木と法付垂べ。一年中に垂一丈
もまくなるべし。そこ植よりあるねとぱ落ちて云

べし。麻をよろくするものは、ちゝ人のちをよく付すべし。ぬう
よりとをきこゝろは、数年をつゞけてうゑさ材木となる
べし。又下肥あれば、うゑのとき、穀よりはうゑぬ田に掛と
うゆるは、材木あれば、ふかく侵かゝる所にもくさりうゆ
かず。七八月あれば、乾きさる所多し。掛し家に、云よりり
く晒て作り、雲の雪ざるわりき掛ひねとあるく、掛ひ
切掛、芝をとうゆるごとくにくく。根と黒く、路付亜ぞ
爰ひかげくあるべし。異に作りこうにて作りぬぐらそ
のかうつはあれば作るべし。ぬ異をもへれさうり。虫も付ぎ
るべし。晒ひあるもうもきりやうふしとくべし。又は掛、餐

根と多くひれるくうろへ。三度すゝりよきうて。晒
とゆりちゝまれをとるくはにくかき付あるを
ちりけ亜べ。根よりく異に作るかどもくさう。肥
る所もそ。宣しくをくすと紀せり。日なりて根付肥はうくるも
うこは生も。陶朱公曰。柳とよ科うのわるぞ。柳よりかくべ
かゝぬ。林本にもかるべし。ちゝあるべきくうのべしとも
○又うゆる法。白揚の根ぬさ掛かどにしてもも三尺ばかり。
掛とべひねちくとゝかゞめ中をとちをとを指
へべあり端ひちとおくよりよ白ひ直よかるべ。ぬけど

くして二度ばかりもうるを要とす。一畝もうゑれば一万貫ばかりあるべし。あるいは瑞穂の芽立ある所也。
畠ばかりに紙くらん田あれども。又穀は作るゆえにさるあり
地。柳とゆるはいはと見へし。柳もあまたあるあ
はるる所あるべし。あれば乾るはたとかくよりちるものゆえ
くしてうゑべし。又柳の下小蒜と一種づつさし入るべ。
中はせざるゆゑかし。又極月立春日に柳を載れば実
はじとゆるしと云り。○白揚はてこやなぎといへ。
そう紫なきしてと紫ゆ紫風し。むけもしやすし。蒜と
と。糸物に染るとはなく物ねよしそうは山柳なり

白木と云こえあり油とと
る。江州所々にあり。畠よ
うゑ。民用とゆるとろう

檀 オ十一

檀又ちんは木ともえ二種あ
り一種は紫ひろくして榛
にはぐりとりよ田畠あ
ぜ畦ようくよしねぎそ

おとぬべねとゆべし。山椒は実ばかりを用ひて葉と皮とは捨てゝ用ひず。こうりんは民用に利あり。ようく多くもうゑべし。田畠とゆけざるゆへ葉おろさず。山椒とゆかどゆる所多し。いつるゆへ木枝と共に刻こまかしぐ木枝は薪にくべし。やうをけ。ちんがくこもゆこをもかけ。

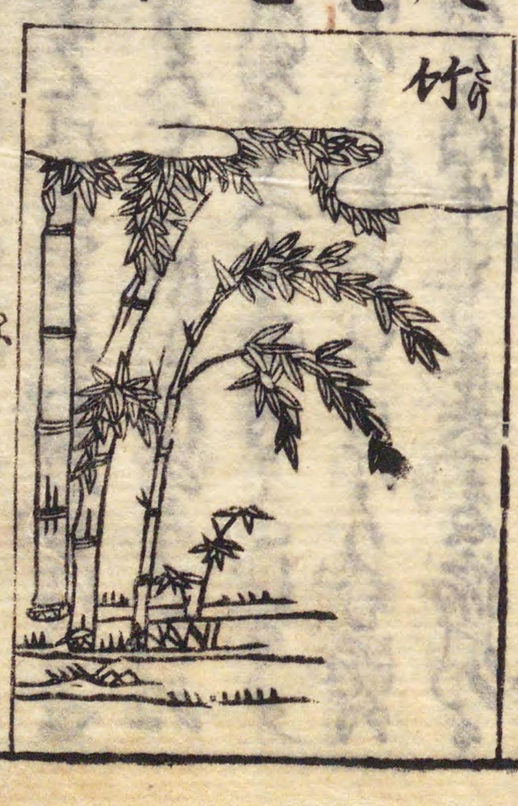
山椒 俗に樹の字を用ゆるハ非なり 才十二

山椒は花と実とするのミあらしと実とをもく油とをもくゝ民の用をゆく。

ゆとふゝ。ゆべし。椒は材木ともなるものなり

竹 才十三

竹どうゆる地にうゑくしてゑうゑる所。山乃麓谷川をきゝの黄白牧の地に宜しくそ。ひねくかよく。沙ぢゝ。ゆる和ゝ。ゆる地潤れすれでゝ花をぬひとゆべ。三月ゆるとゝ。○うゆる法三月一ゆ花



つれ相を。しくゆるおしうくさけぐさけざる所に置
し。まとも相とも分づつとめとく。左右四ケしべ東西
の隅に池と廣くかり。根ちんれ水とあ面れ方にひき
直ようつくちをおかるる大すに根のうこうね
ぬくこ二分ようませ法ゆひをくべし。時ばかりこひる多
なれ路行るの行をうゆ一ゑいひるなりも清井
きくゆくあとそくだ牛ら養。表裏ぬる
分ぐ法いりかぐも多よくべし。行いれ分あげたの浮さ
るようつく豊毛早きぬなり。○又行いうくわさ
り相まそ法さるいより風に根又いるを洗

ひくるけ女れ面あど洗ひるあり汁とかくけくを出
せそして。ちくく痛ぬ相ぬなり。○又月菴と云古
人が行と栽し法に溝と深くかり。乾ら養を洗くませ
一尺ぐらうもとさくく反いるとうとくあいたけく。
三日ぬを一ぬとして深くうに洗るたをいくおひ。
根ちをかけませと二ぬ根ゆひくに根のたをぐさひし
くうらぬひぐうすところ。○又行れ面の方れ科
とかりれぬ方くれ根必あるさす
ゆくくさゆるねとえうあの中ぬるとんけくうる
べ。ぬの面れ行ぐうぬ行よかぐさず法未も

皆石灰にまぜうゆるるゆへ三わかなり又流にも竹をうゆる
よけかしこ。百とかくく十分ぜとぞ又竹を栽るハよ月十
三日ぞと竹祝日とも竹遠日しも云くぶ日竹をうう
ゆれを百活らこうひおく。所さうゆるわかなり又必ず月は
かさうとも毎月廿日竹をうくく活ぜうう又三月一
日二月二日三月三日ぞもうくく活るわかなり又底の日
ハ毎月うゆべしとも云うぞつまも根のもを厚く養く
根元一竹を数人うくく根ぐ云くうてうゆれば盛
ぞせざるゆかし。又菊を竹をハ根うくくよくうゆひや
るわかれを活をうくぞ活うようかぶかさう

ゆるわかなり又云竹を植うくぞ一人してかぶをうゆれを十
年にしてさう人十人してわかれをよかぶハ一年にしてさうる
ものなり又大き竹をぬこうくもかぶかさをれを
かうどぞかさ竹をくくもかぶをうくくして月養ゆる
ごとく根の上に糞を多くうくきぶをなくさう人大
竹をうゆわかなり又竹をうくうゆれを竹林の中
方ハひされをぞ猫を活ぞうゆ竹をぶハ筍多くかか
わかなり○又茶をうくを竹を植きぶゆるをを植うく
又云ゆうぞ人ぶ活竹植ゆれを竹ぞ人ぶ
をを植うくよたを通ぶ活竹活たのうさあぞう

つくとつくり○又竹を伐るに三伏の中ハ又七八月とよ
しとも又臘月とも云れど決定せず○竹を伐よこと毎
四とたとえるもあり竹ハ七八年もすれば花咲て生ず
之竹をもるゆなり○竹とハ竹しるめくに年ふる
ると伐べし竹林と生ずるなり日
よりもすぐるハかるべしすべて竹の伐ようハ
大き竹林もゆくなるゆなり又竹ハ心なれハ来ると
してかくるべし○竹老てたちくるしく
見ル方の竹ハ根つくてそこなたちくるしく
枯やすくてそれゆゑなるべし竹の生ずるハ
ずとえハ竹の竹ハ枯ゆくけれども竹林の
枯ゆくけ

枯ゆく気ゆゑくやうかりとも云○竹の性ハ
かひわりく枝葉よ養ひ○養ハ枝葉ハ
よゆるを故を竹を伐ハ日数をつくほるとねさはく性
強うるゆゑ○竹ハ竹林ハ竹林ハ竹林ハ二月ちる
ら金を竹よハ竹ハ七月末八月を中分と
をるゆゑ又竹をうゆゑ竹ハ枝をこ日陰をさて来
と節をこハよりうゆゑくさうゆゑ竹ハ
らね竹よすべし竹ハ竹ハ竹ハ
されども多くうゆゑよハ竹
○又唐の書よハ竹の竹ハ竹ハ六十一竹ハ竹ハ

よ作るわあり。弦云作とく径つ七尺。一苗ぬき一丈二尺ばかりもなり。又八月さ一尺よりもくらゐ細作もわるし。日南方の作ありと記せり。○又河内国。狭山池の流よ作とうゆると云る。日本紀に尺くらゐ。ちよ塘うりうくく。ぬき根をとくかりみくけうくけるわるり。巴うれちよいくさうゆるわ。ぬれ池ぬれちと薬ハ必作とうゆべし

園離と作る法 オ十四

いはかきに作る本。奥橘。枸杞。五加。秦椒。梔子。刺梨。葉。橘柚。作ると多し。必ずわれよ。ぬ奥橘うこきわ

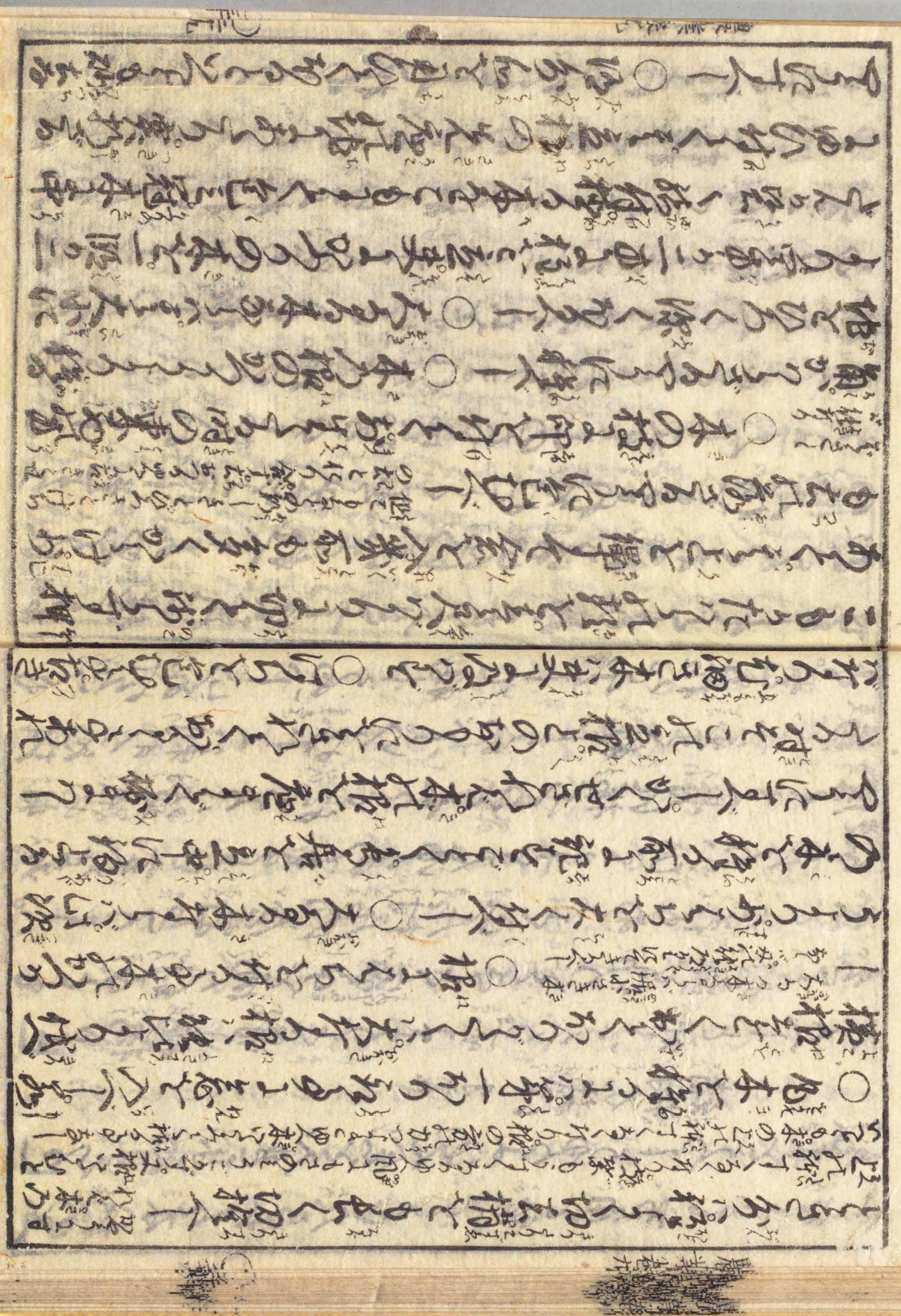
杞。橘わく宜し。奥橘ハ盗賊ぬふせぎ。ゆるわ
わ。くこうとぎれて。ちへ。葉ハ茶よ。葉ハ茶
も用ゆべし。根ハ共に品薬なり。酒にもちろ。枸杞ハ
功能あるわなり。○ゆるゆる作。奥橘ハ九月ろく製した
ると接ぎとり。浄く洗ひ。蜜ちよ合せ。麻の荷巴
かどにちしまれたと厚くおかひをくべ。ようくまる
わなり。○枸杞ハさて本。ぬ根ハ。ろく洗るわなり。冬ぐ
唐ぐこハ。肥樊ぬ作と。茶とうゆるごとく。晒作の一
蜜と多くうとさしこ。ちとく蓋と。ぬ。ようとり。
意作ゆるごとく宜。人ぬ。ぬで一科ようとろ。ぬ。意作

どうして大と厚くおろひぢをうと除付つるとくさいく
畫ゑがをそくけべさうく畫ゑるまくりかー綱板しく
はそうるを入くく結しうゆるもようぢとまく畠コ。
悪ごのこくくうく付よして刈ゑく繁を料理。
流よ畫ゑをかけ悪もぢかくさうくくくひく刈
用めべしはがきれ時いはくくも骨コなるつきを。
罪めるよ一なづうをさて横ぶらとゆひだ猫もと
とらざらはよとべー。骨コいゆる素。ゑよくく
杉橋もうー根菜をよてよお付るるいおのさうと
もるうど　○大加木ぶ畫きー木コるくきとき

そ。元も根を生じて稍ーうるべー。山和元るくも
苗ど主を生くはしうのべー。いる根下コいは刺ありの根
厚くうく骨に横ぶらを去うと結ゑるいは盆城の用
んとなりかひくーくくゆるのこまるとと実を元。
菜とゑ花めあくぢ居村居の屋敷白ゑういい。
ぶくくれ離を作りをさくく家ゆをゆる計るとも
オるべーと紀、ーーいうぢ。ぶコようく骨コ稍稍も巳

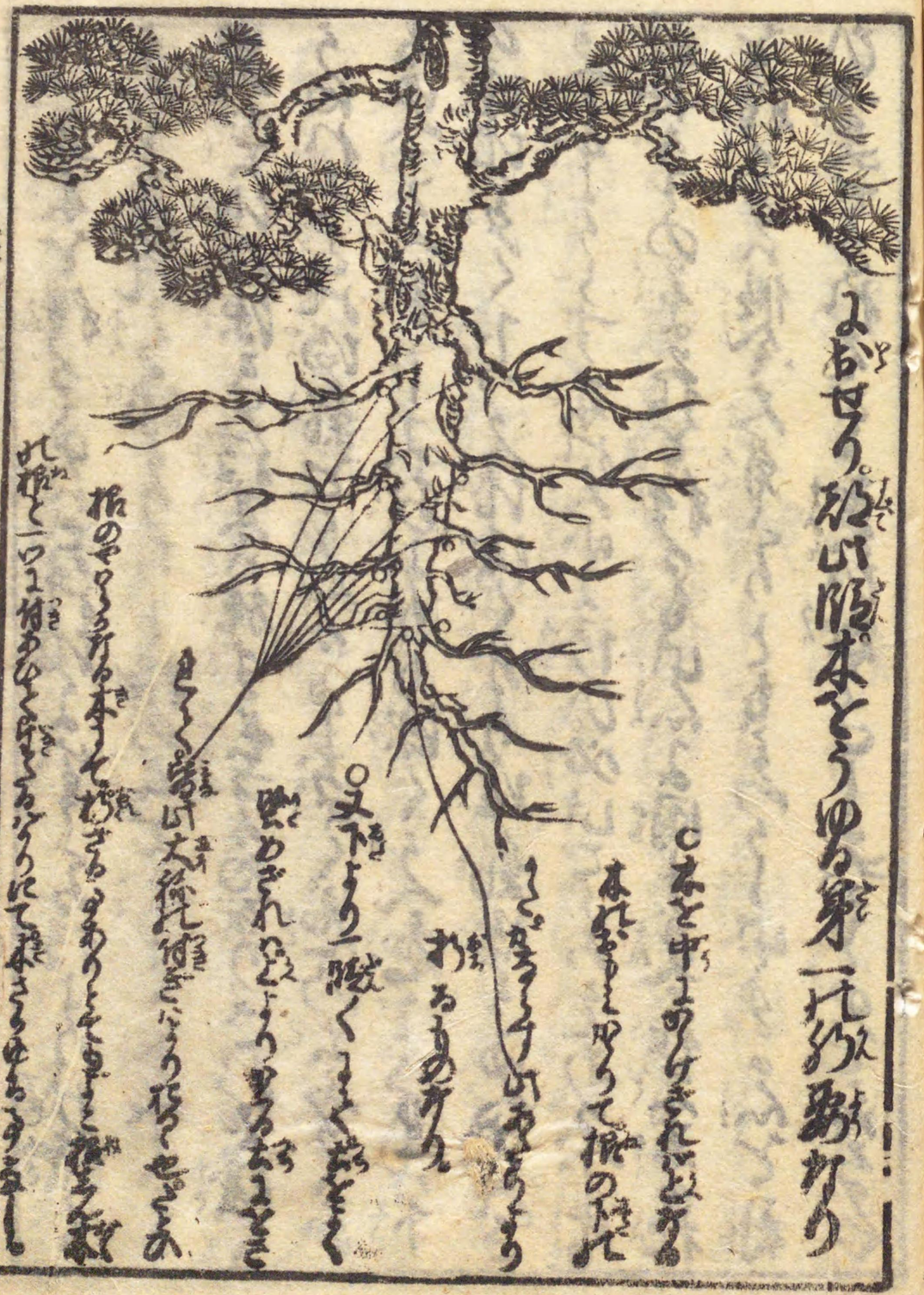
結樹木栽法　オ十九

毛木をうーうゆるよいぢん会を入きゑ和コゑ巳
と付くぢそ方角と習へくくどたさなる木い稍の



とにとく。根よりけちはぶそして根のうろくぱをとう
ゆる時そこ横根ぞんくあるとぞこうちを入まぞ下よりは
よるこ二時くまそこちをたくぞ横根のけれ付乃
あり氏而まぐぞちをつくさようくぞりてそこよて横
根をすんぞこうり多くちとかけくもこ根下乃あ落
さうくそこうくおれうまれ付くる根のけりぞかりこねや
うこすんくしこ又ことのちをぞひるもかくけぞこうぞ
の時乃根ともぞれ付けてくこるのたくこ同ぞそこより
こぞんくある根も出ぞかくぞ根くぞ四ぞうに
せぞしそこうりあこちを入まこうぞひねぞ横うあ

こる根出こ氏こ根と一つこ付くこまり。株本なこの
新こ根乃こうさ木ぱきこ乃根こ付くこる而こうり。
出おまこく根る伯かりぞこうぞひ根ねこもこ七こりハ
実乃ゆかし！　○本と抜く根
乃ちとかこひる時本氏すんこを紙ぞあうり又て亜こ
うゆべぞ右こ紙すこくぞ抜こく抜ぞ三方に
剛本とゆひ氏ようこうの乃こうにすべぞ山根のちこあ
の乃こり抜こく切せざんこ木と抜ぞこうゆるこハ方こり
ぐこぞこし紙あるんこ多氏ぞひこぞこさこの乃
氏を考こくぞたこんぞこ木のこうんこ方こうこう第一



よおせり。根山脈本とうゆる第一ハ級駅かり

○本を中ゝのけぎれいとなる
本れるゝ中ゝ中ゝて根のトキハ
ゝ中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ
わるゝのかゝ

○又下より一脈くゝくゝくゝ
黒わざれいとゝ中ゝ中ゝ中ゝ
ゝ中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ
中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ

根のゝゝゝゝゝゝゝゝ
れ根と一ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そ安くんゝ紀根ゝと。根ゝ吉ゝ人ゝ高ゝ人ゝ山
ゝ中ゝてゝくゝもゝそゝ根ゝよゝかゝ山ゝひゝくゝてゝ。ゝ小ゝ木ゝを植ゝ
よゝべゝんゝとゝをゝくゝ中ゝよゝひゝくゝげゝ。一ゝ人ゝハ庭ゝてゝ古ゝを入
ゝ中ゝこゝゝ下ゝゝゝ根ゝくゝ黒ゝよゝべゝ。ゝ古ゝのゝハゝまゝゝゝ根ゝのゝくゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○又木を植るゆへおれ地にまこと植よりかゝく
うゝく今れる地よりちと柏のたとそうく至べし
ゆへいぶ地の深きを植木へ植生もするゆゑりされど深く
うゑれどよれ泥氣とうくるゆゑくゝ麁乃たうくゝ
るゆへさうへ多しまた又おうりも深くうへ麁ゝ入豆べ下
の深地多くゝ下つゝ入地深くかりぱ氣深きゆへ木はさ
うへ多しうゝすゝ木はたゝ木ゝ植ゝ必はしこうえあうべゝ
牡丹ちとのまゝ花と植るもはんゝ同ゝ麁花木ゝ花
と植るゆへ俗今大角さうしゝもゝうゝはゝゆゝんと用
ひゝ美せざれゝゝ美びゝ麁ゝこゝゝ麁ゝるゆゝ

ひとゝゝくゝ麁ゝとゝもすゝゝゝゝ麁ゝ百ゝ人ゝ麁ゝ人ゝの肉を
ゝゝうゝくゝゝゝゝゝ美ゝゝゝゝゝんと撰び用ゝゝゝ名
おゝり○木を植ゝくゝ植ゝ植の白ゝうゝゝあゝをゝくゝゝ
ゝゝくゝ泥すゝごゝゝ○又一法ゝうゝゝゝゝるゝ法ゝあゝり麁ゝ
泥ゝり○木を植ゝるゝ麁ゝと深ゝく廣ゝくゝ木ゝを植ゝう
うゝゝゝくゝくゝゝて古ゝと入ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古ゝと泥とゝゝゝゝ穴の四ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あかいきゆうりんに目あるをぬきとり路付をよこよ
ちを四五寸もそろくよ毛をべし。色は路べうしず。根
本はたかはひくぬひとうよちをぬくかちひとつき色
しこと肉よりたりくあるとへとくべし。根のたをかたりす
ちうすぬきをもくこいうりのうれをとゆの風よ
もうこうねはよすべし。必風ようどうすくうこど。
をひうかをしゆひ合すべし。必風ようどうすくうこど。
人こけふとれをいそよ乃なりそりよもうどう
さひこうこどもねどもうこどもうこどもうすくう
らこ○同じくうゆる時分はぬ正月とはしこ二月

を中はとし。三月初を下はとす　又大民は秋ゴハ十月のうげ
ゆうあうこうひぬぬげ拾ても　本とこ十月ハ結氷の月そ。
ようにくくとうケう　色東は鶏は。根は兎国桑の蝶蟻
隠ぬぐくてをを本くれ芽のおうこをぬうを
るはどうさうくちかとするうりおうるまぐ
ハうしまをいあくぬ本毎は時分一くよハちるしが
さちるれるもるぐくは本ハ正月より二月の始まぞ
とうとす。色は同はは紙して始本うくちかは大概と
すべし。芽ちれ先をあくうり実つくるもいうりを在者と
もこかうり正月一日ようり同時日乃るふ始と稲しう
ゆべし。但寒実のかるわいとこ十六日ようし。下十六日実

がまの上に大なる木あらばず年もおようねとも
落し。根のふとき分ハ切ちくがたのごとくたとえ
ば。根とばかりそあるも損じぐうずさくく
うくハ日おひとまを経て葡乃時ハまべ。ひく長
と入れおびとまぬようのまこばをとうぐ
活るおなり ○又根の下に粉末ぐ塩ぐらとま
こをよようめれぐよく活るおと為せり ○又木
と稲しうゆるゆハ下ナ日とよしとすぐ十六日分
乃生乳まく根葉ある加稲せハ性と傷つ。接ハ則
乳と失ひ。又代ばうるかひ乃手中にみちくべしく

とくとく出とけまぐ。溺ぐさうんなる時を見とんぬぐ。
かし湖乃時ハ生乳根しよあるゆへよく活るおなり接木
も同じ。但菓木ハ下ナ日ハ失すくかし ○はのど
く古葉ハも焼ぐ多ぐれども見まぐなひれ乳
うくぐ出るハあるぐど。傷よかり稲やう。おこ泥すご
とくんとあし。乳と入ぬれぐ。ぐ本るどハ多のち形
ふ稲しても病ひるるし。味ぐくんと見ひ。ちるゆと
おとすふあり ○松と稲し接ぐ注。松を作るゆ根て
んと用ゆべしのちゆハ。花樹菓木乃乳ハ根と多く代
乃ど。根乃力かつあ本ぐ。ハ遠時のしれども稲ぐく本わ

うえくさおよりうまく花開実のうれかけうまうれど
稲むしばさとバタくれと成くぐーふ流るくうれ
対る術あり。只拔、まうれつきとふくぬ井びとす
るあかれど稲と付れと新り成ぐーされむ能く
んとあしし。稲るも稲るよ。稲をそこかひ稲のり
けうべー。○山林よあるを稲しうゆるふーバ九十
月のはちんこを稲とほり白ーだるる稲ハ月えうひ。
長くはけどとと能稲より付べー。あれ花うあへんの
く稲よくられ対まーきあけーべあて田たと教
十日こかーあて。木稲のすかたとぱんのとぐうう

稲ようく稲のくまざる時よ実成ーく田たとふく
稲はくちとこーくちけーうーバあを打てあうう
せ能稲をかくむべーを稲もあれるーバ一十月と
一二度もかあとそくれちと稲をふくくひべーが
くーにあてく決れをあ十四十六日の間こかり
稲ーべー。その稲のふるれーバ二月の若よ入ぬ七日十
日まくもくくるーかくぞ。○かりれ時たるる木あえ。
三方に汚濁と付く。俗よたとれそこれね稲ようべ。
ひち井とあてく稲くうよくくをふ入ふよ死す
ごくー。○稲のくちをこあたりあどと洗く切き能

押倒さく縄とかくはてまげく結ひかさひるる。色
又おゝ米付ゝ同ず　○植うゑ苗とゑさく苗根
はさ苗根ざる苗又下はさを刈こひろ長ゝ長ゝ長ゝ

とりのこしてさびくあつうしやくすべし。
そこなひをはんごろよんんと用れば。かるくるかしお
よ云ごとく。花樹菓木ハかるゝと勝まゝ。ねどき
るべし。なくゝ切るかどゝ根ノかけくしてはのこ
うるゝ

接木之法 附養と用

木と接法ねくあり。先養木と為てくゝ稚よ三五
るがゝし。心ゝ様ようの傷よりあるハ第一ハ細根多
くはゞしてはめもあらくゝ生付あるわり低今つ
きそも。ゆゝとそくゝ。はゝ年とつくゝ子ゝうのゝ木

よ接ゝるよハ劣れり。心ゝ様ようあるとも。根よ根
かれと用べし。ゝきふゝ木ゝ柄かどなるを中
分とすべし。梨柿梅栗柳桃接ノ新ゝ大ゝ木よ中ハを
ぎよ三ゝるもつくわけり。柳橘の新ゝるくいつくべ
らゝどだい木ゝ大ゝとうくん合せゝふゝゝ根ゝるるも。
きれどゝるくゝゝ。一尺ゝ根ゝりよいゝとべゝるゝ。又下く
とも尺ゝ寸よ延べうゝゝ下きハ活やをゝれどもゝ木
ノ皮切口を包ひゝ生ゝ。ゆゝ木ゝるけまゝ。木ハ結上
つゝかわくゝ地よ及ぶゝ氣色ゝゝゝゆゝ根ゝるゆゝ。ハ
寸一尺の高と平分とすべし ○歯ハ洞ゝある枝

こうく振りこうく引きり。切口をよんわんぐまきめありこ
まを目はりをきあに種を付るあおわんぐこをおそる
く削つこ接種のもさ三寸ばれ方を一寸ばの肉をこ
分一ちどかけくうぐこをーかがこくはようくこ口中
乃生氣を備り。極ごいホれ種を付る前を。種のそぐこ
る分すこ合せ肉の四こおかけく皮を切ひりこ。小力
はきりこる肌をひこるくして種をこーへ行の皮をお
りこの紫花油紙こくも一こまきこ上をあこ
う打ここ。又は葛かげこ乃皮目こくぶんこそこと
一寸ばこ乃も巻こくこ。此又面布もとこ。接も

入ざる桶よ。桐ーく色こ巻こくこ日おひいれりこ作
乃皮にこく。日りげはよりい。種のさきんゆる桶上の
けく色こ色白りと能大もさりぬ桶よ作をこ
かこひりこ乃こもにく色こ上をかはく面毒乃氣
が毒ー。氣乃こりこざる桶よすべーむ泥こくぐ
本はは切はト。二寸種まこくぐ厚くめり白ー。荷まとう
つくうかひと引べー。二桶早ほくいあをかこ
こ。物々わつこそはこ本はりをかいすべこ。ぐ
い本は皮の一寸を切こふこずして接こる。袋接とい
こ乃。又皮と種乃こそこ。こるすよく合せこそこ

して柚の皮目とごい木れ皮のあと付合ひしてが
かさ〳〵せてく柚とけるゆよう〳〵 ○又あ橘ハ柚のかを
ちうづくしだい木よ付る而て一すまも柚乃肉とわ
かけてひしうなく削て此ようくさそごい木れそぎ
ハ柚ハ碧るゆかし。但さりひらくよ下れ木をわ横よ
切皮とわさよをひくさ柚と合せて包ひ。ゆ
よ回〳〵さごいがうくくもかさ而あらべ竹の筒よく
も柚乃ちをさ〳〵べまこ風よもうこの柚を蓋本よ清付
とさ次みを入まこ表ハ木れめるまさるあよ形り
よあとかゆべ〳〵よく付く皮肉よくさりあひうをん

こく。をよりく。柚れ下よ切るれ而をよくさるる
ひにくゆ切をかすべ〳〵。をまく悪い痛こ指るれけるよ
○又さ〳〵橘とハ柚とをうくくしそ芋魁ゆ世まちよ
くもだい木れさハよ肥ちくほこひく柱ゆ紙
うへとし。柚乃ちとうくうゆ切ゆ〳〵ちよ深くさ
〳〵ここ橘ハいあつぎよ回ト ○又木を橘にこれ紙ゆ
あり一切よハ木れ肌へのかまこをるとんるかり二つよ
ハ柚もだいゆ若乃而と切合するかり三切よハ柚とだ
いこの皮肉の元合をうくんくく橘かりゆ三刷を通へ
ごとそ橘〳〵るハ柚をとこいゆるる〳〵

橘乃のゆハ木の皮と。柚をれわ。

まゝ方ぬけばしくばの巻頭じて。すくく茅をあすわかり。すぐく木れ根ハばよあるうの
なれどかり。又接かと深くぐいはのばよかくれぐいぐ木の根ばより拾おてされくまる
ゐなり。凡つぎ木のちゝ。のかり。深くよきり食せしくれ根ちりがんよ
あり。ふつぎかれ根ゝと。食点すきこば百よ一円もあやまちなし

○又よせつぎへしれかどの巻木と。樹乃ときようへをき。或
木ようりく桶かどにうへ木のわきにしをあて植
れある根をりさらあ木とをてく根よ打こそそあよ云
ひとゆひ付品てく接ゆいおよ同じ。元ハ百流ようこりひ
かしされどてかし接のようくつ根さるよりハ蜜毛蓬
しいうんとかれを接ハよんそあ品りりひざるあなり。
いかも接法ありしいへどもさのこ整ゆなし。他仕年れ
人乃接ようかしくつきて老人ハ精神をしれゆ多く

ハ付かわるわなり ○又巣樹を接ハとるゆハ正月中
下よされ乳きさるか根をバ切きべしこまく巻ハ木の
力色よ分れく実かるし木ごとか実れあるさるか
根ありそをを深根とを切すをべしかくすれどおの
根さるを把ふるわなり ○又木の下を常よ生り接
除しとくべし。虫も付ど。葉よあれど云いそ乳よ蒸
面霧ハ乳ともるよにうどりくゆ人葉ゆ踏ゆ踏られ
でホ口ハけ実多くあしそ。他人今おりても小さく味
もようしす。根のとりをバ切ようハおるくあ面あも
たようさる根よすべし。下根をを洗をゆいるこを本

の下と人のあるうへ。よれなびかゝる枝とうしろすす

○又樹木よりあをとそゝぐる。朝晩あらしきさそか

るくうくくべしわゝくうちかくれ病むわすり○又

樹木よりあをくるゆへ。蝙月許のあり。他の月ハ

用ゆべしされど樹よりハ花と見るべきお鍋のくさう

かしとよとうらくるハよくきくあるり。あしく樹

おれ而よりあるす。又畢竟ハ海名畏名と柏の下ろ

そくべし畏とわかつく柏よりかけるハ時をきるハ

ときくわけりこき畏ハ名のあいあゝ○支花樹

と再び果の木と傷るる人。こ花し美しく。こ実ハ

傷きあんるゆを思ひぐよ紀畏ちとゆくこ柏の上

と入かゝべしるハ月扱めくきを所の上ハのこし。こ

れ只傷ちと扱のけよく洞ることちとゆるゞ。

これ入扱ハおよ木とうゆる法と紀すんゆよ同ど。

ゆうよとれゞ花木ハこ名毛まさり花ゞ

さ大ゝてるりく。畏ハふくくして味くゝ又

年ごりするゆるし。但木とたるゆするハ一年

ゆ入ちとかゝ次のこ又一本のちとかゆるもう。四

所ようりこ泥をぐれるる肥ちるゝバ扱るよなゞま

せんせ
ゆの
もとかゆ
注なり

じきろ。さうかぐ〜ちよりさたと。紙くさ〜。裏を打ちくめくべ。きかつくんへ。移ぬくりるべ。こちこちこれこうくへつくる田おとよくなして。ぬうよりぐこ。あわくりゆせ。さびくこと。をかけ千かりく。ばこくるわけの留大と四分一おく合してねーくぐーすぬ。ぬこーうくもん。ゆくりおくおひとしめごくすべ。山れ。ゆ持ま異とこあんりゆ。毎年宅乃中に。木の根とと。ゆりこるけのさぬくくく深さ八九寸よも実そ生こうけこと入るなり。木ぬ大ゆこのよりて下和も伏不もえ合せよべべーえくこと。ゆのひるべきけ分。ゆぬこ。ぬこよくぬ。山完とうめくるぐよりーぬこ。ぬ仰生の木よ刃ひそもよーぬ。ぬ分こかんよよく刃ゆるゆかりぬ入持ぬり梅

出異としてもるハたとくへが木乃根ぬろうこ乃あるバ一ゆよ一乃ま乃づなりぬこ。ぬ木ぬ移よりる一乃るゆうれ内にぬくぐ一八三四寸ぬるうさゆ寸移よ溝とかりるぬ個これと紙うてかれゆ木のねきくまゆぬるぬくくなどにくぬりくくよ。ぬこ溝よ流出裏とへれくくこ千こるゆぬこきれ紙ぬこをゆくぬ。ぬびべーぬこる裏ふどとへれくぬこよとうくくこるハ行よりぬ。ぬゆれ裏あくことへまくくもうづびべー○木と書ぬゆうれ園こさハめくく癖ぬ。ぬくくハぬよ紀とぬこかゆるよこ米一なり。百よ一円も失ぬ。○悪ぬ。ぬくくハ菓ぬ。ぬむ人へ千なりゆること二ぬ移くぬ根乃ごくこぬくく

ひべし。○下ばのとき植へ。木生せざれば。二尺ばかり
ゝ下ハあるべし。三尺あるべし。木漸く立れ
ども。其ゝ木ばかりにて。ゝ招あるよべきハ実なるなり
し。此ハおのゝ如くかし。但年来の宅にて。庵も
実も薄くハ。ゝ人ばかりにより。地形をあぐるべし。
かし。年くゝ手する木ハ。ゝ人ばかりにて。三尺
も高く植て。ゝ高とよい。漸〳〵ゝ高と成べし。色も
十ばかりの木と。金を入くゝ二三かうゆるぐ。花と見ぶ
とゝ。木いづれも。ばかりとゝ。○西方の地ハ。ちを
宜へ。但地ハ地形と高くすべし。ばかり人ばかりあるべい。花

果の樹よく実ゝ成ざる所かし。○又一圃二圃の木
ゝ。ゝ木ハ実ひさまく多し。ゝ招と壁塚
ゝ。又武家ゝ。ゝ招とゝ実と成べしと
しよりよく寒と加へべし。年くゝ。ゝよすれば木
の招も実地とゝ。ゝひゝ木といへども。花樹果木
結実ゝ。おなり。○花果の木。ゝそも実と用
ひくゝ。ゝ時かし。花多をゝんようゝす。四季
ゝふゝくゝ。ゝ後ゝ。ゝ多とゝ成るよし。○藻
木よ付ゝ。ゝとおどすゝ。髪のもとねよかけ
ぶゝを付ぬものなり。ゝれ尾条をとゝ。又ハ縄よ

ゑるの形ゑいかりんごれさりさくるとんさくぷ木乃
よてよ引ぐくんゑるもよう〜　○樹木を出て嘗よへ。
孫英。雅英二色と移うてゑよと合せ。ふすぶ
れど出居孫英と河乃色の酒と合
せて出嘗れ完とふさ死およれぬるも出て死
るなり　○又元日に晩んだきたいれと炊し。菓木れ下
と照せど出れ笑るしくこりゑ二月乃昔よへ晩も。
山のでくしてよう〜　○又菓木のぷくくも実とむ
とバざるハえ日に晩ぷ。茅とふくこち木れれとうら。
が沒れくまぐくるなりる行れぐく実るなりびの。

どくするゆと。嫁菓と云くぷよりもるゆとえ
くくり　○又島よれれのなり形よ遠ひ。ゑも常。
にあくざるハ含すべくぷ。色拒下に毒蛇わるゆ人
なり
世人花樹とゑ。菓木とこのめるゆ。或村居玉居
ついくまある人ゑハ癒宅使焼とくくくん。或老
人ふど弱年れ樂とせんゆ。色出るを麿とうれ。
又他のめるくどして。紫さふくるゆぷする新
なるべし。或又云孫実れ人の嘗るハ移ん英ど
べぷ。ちれども世のおゆく呼のいさひある人ぷ。ハ

そ勢にすりくゝ下ざまの人は深くんとそゝぐべし
桑びるの花果とも人のんとつゝふりて押もゝ或
る傾れ草木とゝ高のあくむとり毒とはくゝろ
らのあとをるゝ赤痢のんだゝ乳酪より甲者色
下れ時すてさゝよゝ士人はよさふあゝず富
ゝよ居るゝ行ぞかゝる深まゝしゝ汚とゝ乳者
くこれをゝとするゝのあゝんゝゝあふゝく嘗わ
わゝぶ必ずとゝゝく求めゝ或又りゝめはゝゝんハゝゝゝび
そゝ結れをまくゝしゝんゝと汚さず潔くしゝその
ゝとゝふびゝゝ化時めゝさゝ色れおがゝある人ハ深く

乳と戒むべゝ又藻水と嗜る人とゝんるゝよ扶よ
いゝりく腹苑ハ心性ふゝどゝふ扶拾実とゝはすゝを
時いゝりゝるりきとゝりどく樂とゝ與よ素じゝさび
く多く美味するゝありされどゝゝ生漿脾胃
よりきゝりゝスハ湯乳不見れ人ハ潔く脾胃と損じ
湯乳とやぶりいゝくふく病とゝすゝるゝあり或又
子孫れ小児ゝ右ハ行ゝるゝどの藻とゝくいゝゝ
脱ぶゝと性ゝゝゝゝゝ咒れ嘗るゝとゝりゝすゝあり
あゝ食ゝゝめ病とゝまゝくゝるゝ月ゝゝ拾ゝる
潔くいゝる疾ハ色れ醫術ようゝゝゝ人ゝゝるゝす

くるしく必大人小児落とけるりがしく咲す
べし花樹果木るよ花を和らぎ和むべきなり
おのくくんと見ひ抜くを加へバ方に枯るるしたを
んいさぎよくるるるとすすく深るべし今は書
と改め記とる序ごろりよりて賛せりや